

日本の食料基地として 全国5位の農業産出額を誇っています。

東に日向灘を望む九州の東部に位置する宮崎県。「日本のひなた宮崎県」に象徴されるように平均気温が高く、温暖な気候に恵まれ、日照時間や快晴日数は全国トップクラスで、この恵まれた自然条件を生かした農畜産物の生産が行われています。農業産出額では、全国5位を誇り、日本の食料基地として将来にわたり、維持・発展していくことが期待されています。

宮崎は「ひなた指数」
総合1位

平均気温 (平年値)	日照時間 (平年値)	快晴日数 (平年値)
全国3位	全国3位	全国2位

宮崎の農業産出額は
全国5位 3,562億円

畜産 (60%)	耕種 (37%)	加工 (1%)
2,206億円	1,320億円	35億円

※平成28年

多様な農畜産物が生産され 付加価値の高い農業を展開しています。

◎宮崎県の全国上位品目

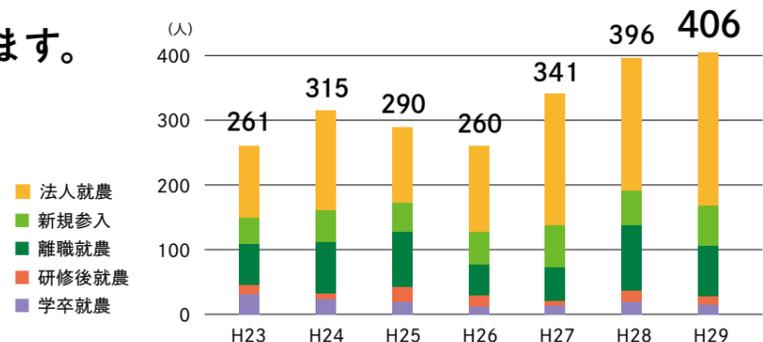


宮崎県の農業の特色は、畜産、施設園芸など集約的農業を展開し、多様な農畜産物を生産していることです。特に、畜産は農業産出額の5割以上を占め、ブロイラー全国1位、豚全国2位、肉用牛全国3位となっています。野菜では、きゅうり全国1位、ピーマン全国2位などビニールハウス等の施設で栽培する促成栽培が盛んとなっています。「宮崎産なら安心」、「選ぶなら宮崎産」といった信頼を勝ち取るため、「いのちの恵みに感謝する県、みやざき」をコンセプトに付加価値の高い農業を目指しています。

次世代の農業を担う人財を 積極的に確保・育成しています。

宮崎県では次世代の農業を担う人財の確保に向けて平成27年度から首都圏で独自に就農相談会等を開催しています。近年、新規就農者数は増加傾向で、平成29年は平成以降最多の406名(うちUIJターン者94名)が就農しています。農業を基礎から学べる「就農トレーニング施設」を県内各地に設置したり、「みやざき次世代農業リーダー養成塾」を開講するなど次世代の農業を担う人財の確保・育成のための体制をしっかりと整えています。

◎宮崎県における新規就農者数の推移



お問い合わせ

農政水産部 農業経営支援課 農業担い手対策室 担い手担当

〒880-8501 宮崎県宮崎市橋通東2丁目10番1号

Tel.0985-26-7124

Mail: nogyoninaite@pref.miyazaki.lg.jp

◎宮崎県の新規就農関連情報サイト

マイナビ特設サイト <https://agri.mynavi.jp/miyazaki-ken-syuno/>

みやざき援農サイト <http://www.ennou-miyazaki.com/>

◎宮崎県への移住・UIJターン情報サイト

あったか宮崎ひなた暮らし <https://iju.pref.miyazaki.lg.jp/>



生きていく。



「日本のひなた宮崎県」で「本気で農業“しませんか?”
「平均気温」「日照時間」「快晴日数」の平年値を基にした「ひなた指数」で総合全国1位の宮崎県。
この恵まれた環境により農業産出額では全国5位を誇ります。きゅうりやピーマン、スイートピーなど全国トップクラスの農作物も目白押しです。農業に興味のある方、地方への移住をお考えの方、「日本のひなた宮崎県」で「本気で農業“してみませんか。」

おいしい野菜づくりを目指して就農決意。 「みやざき農業実践塾」でゼロから農業を学ぶ。

宮崎市内の和食のお店に行った時にミニトマトを口に入れた瞬間、「こんなにおいしい野菜があるんだ」と驚きました。独自の農園を持っているお店で「自分もこんな野菜を作ってみよう」と思ったのが就農のきっかけです。半農で果樹園を営む父に相談すると、県の「みやざき農業実践塾」を勧められ、実技指導中心で実践的なところが自分向きだと感じて会社を退職し、入塾しました。塾ではゼロから栽培技術や経営のノウハウまで徹底的に鍛えていただきました。2017年にきゅうりで就農しましたが、いきなり台風に遭い、資材が破損したため定植が約1カ月遅れたのスタートとなりました。このため、初年度の目標は達成できませんでしたが、まずは無事に出荷できたこと自体がうれしかった



宮崎県 小林市
きゅうり農家
齊藤真直さん

です。1年目の収量は目標の7割程度。台風の影響で、ハウスの修繕や定植の遅れを経験しました。経営はまだまだ、発展途上です。年々、栽培管理の技術を高めて、早めに目標を達成したいです。2年目の今年は温度や湿度を測るモニター装置や炭酸ガス発生装置を導入し、理想的な環境制御技術に挑戦し、増収を図ります。塾の同期と互いに励まし合いながら儲かる農業を目指しています。ゼロから就農を目指すみなさんには、いろいろな施設を見て回り、自分に合った学習環境を選ぶことをお勧めします。



実家は祖父の代から果樹園を営む。ブドウと梨を育てる両親も手が空いている時期には、喜んで作業を手伝ってくれる。

大学を中退して宮崎にUターン就農。 将来は規模を拡大し、観光農園を目指す。



宮崎県 日南市
(株)CdeF代表取締役 日南ペリーパーク代表
渡邊泰典さん

学生時代に自転車九州一周、日南市北郷町と出会いました。農業体験を通じてすっかり町の人々の虜になり、4年生の夏には大学を中退して東京からこちらに移住しました。持参金は20万円。先輩農家の下で働いて資金を貯め、足りない分はクラウドファンディング方式でお客様に事前に予約購入いただく形で補完しました。10年間放置されていたハウスを格安で購入し、トラック3台分くらいのゴミを一人で片づけて、イチゴ作りを開始。今年で3作目ですが、1年目とうどんこ病で葉っぱが真っ白になっていた時は相当落ち込みました。販売方法はすべて直売で、5割が近隣のスーパー、3割が畑で直売、2割がネット販売による県外

送です。現在はすべて一人で作業を完結する形ですが、将来はITでデータを蓄積して再現性のある農業を目指し、現場を他の人に任せ、自分は経営にシフトしていきたいと考えています。また、土地を買い足して、品目もブルーベリーやラズベリーと増やして観光農園で回せる仕組みを作ろうと計画しています。人があたたかく「ようこそ」感じたいのが北郷町の魅力。最近は脱都会というより、ビジネスチャンスを求めてくる人が多いと思いますが、実際、そういう人のほうが長続きます。ぜひ、ネガティブではなくポジティブな姿勢で農業に取り組んでいただきたいですね。



私たち、一足早く 宮崎で農業 はじめてます！

首都圏や他県から思い切って移住してきた人。
他業界から経験ゼロで農業と向き合い始めた人。
思いはいろいろですが、作物への愛、ものづくりへの
こだわり、ストイックな探求心では共通しています。
そんな先輩たちを県内4エリアから1名ずつご紹介します。



県北エリア

東の沿岸地域は延岡市、日向市などの消費地を抱え稲作や施設園芸が盛ん。西側の山間部は夏季冷涼な気象条件を生かした夏秋野菜等も生産。高千穂町、日之影町、五ヶ瀬町、諸塚村、椎葉村からなる高千穂郷・椎葉山地域は2015年2月に世界農業遺産に認定。

県中央エリア

県の中央部に位置し、プロスポーツのキャンプ地や青島などの観光地があり、冬季の温暖な気候を生かした野菜、花き等の施設園芸を中心とした県内有効の農業地域でもある。平坦な土地が多く、消費地と生産地が近接しているのが魅力。

県西エリア

畜産が盛んな地域で農業産出額の7~8割を占めるが、広大な農地を基盤として、稲作や露地野菜、果樹など多様な農業を展開。霧島地区の「ヒノヒカリ」は米食味ランキングで最高評価である「特A」を宮崎県で初めて獲得。

県南エリア

日南海岸はサーフィンのメッカとして知られ、サーフィン目的で移住する人も多い。全国有数の温暖多湿な自然条件を生かした稲作やかんきつ類、スイートピーなどの農作物の生産が盛ん。

半導体製造オペレーターから180度の転身。 楽しみは子供たちの成長と趣味のイカ釣り。

前職では半導体製造のオペレーターを12年ほどしていました。リーマンショックを機に転身。兄のミニトマト栽培を4年ほど手伝っていました。やがて自分のやり方次第で味や収量が変わり、手腕によって収入の増減が決まる農業の魅力にひかれるようになりました。兄と比べて自分は器用なほうだと自負していましたが、ピークの11月以後は休みなして作業をしてもなかなか収穫が追いつかず、想像以上に大変だというのが実感です。これまでに3回収穫を経験しましたが、ミニトマトは色や形が揃



宮崎県 日向市
ミニトマト農家
黒木靖男さん

わないと商品にならないので日頃の観察が欠かせません。ハウスは温度管理や水と肥料の供給をすべて自動で行うシステムを配備していますが、それでもなかなか目標の収量には届きません。現在の作付面積は21aですが、まずはこの広さでいかに収量をアップしていくかが課題です。まだ兄の手伝いをしていた時期に結婚し、現在上から4歳、2歳、0歳の子供が3人、家でもバタバタしています。私の場合貯金もなかったため、就農時に日本政策金融公庫の「青年等就農資金」などを活用してスタートしました。他にもさまざまな新規就農のための制度がありますから農業自体は比較的始めやすいと思います。若い仲間がもっと増えてくれることを期待しています。



兄弟のハウスは隣接しており、作付け時期を微妙にずらすなどして互いに作業を助け合えるようにしている。

平日で作業が早く終わった時は車で5分の海に出かけてイカ釣りを楽しむ。釣果はさばいて晩酌のお供に。

長崎の警備会社からUターン。西都市就農支援システムによる 就農第1号として順調にスタートを切る。

農業高校を卒業し、北海道で2年間農業研修を受けた後、長崎の警備会社に10年程勤めました。しかし、農業への夢を捨てきれず、2017年から地元の西都市で農業研修生を募集していることを知り応募。1年間の農家研修を経てJAトレーニングセンターで就農しました。経営作物はピーマンで、まだ収穫が始まったばかりですが、この手で育てた作物を「みんなにおいしく食べてもらいたい」と思えるのでやりがいがある楽しいです。作付面積は現在15aで、将来は20a、30aと増やしていきたいです。自分でも食べてみましたが、初年度にしては甘くておいしいピーマンができました。今後は作業を簡素化して効率を高め

ることと、できるだけ農業を使わない栽培方法を確立することが課題です。生活面では起床時間は早くなりましたが、マイペースで仕事ができる点が自分には合っています。以前は一人暮らしで外食中心でしたが、今は家で食べますし、ご近所からの差し入れで食材にも困りません。就農を目指すみなさんには漠然とでもいいので自分なりのビジョンを持って取り組んでほしいです。そうすればきっと毎日が楽しくなると思います。



宮崎県 西都市
ピーマン農家
熊谷一人さん



マラソンが趣味。作業を午前中に終えると着替えて近郊の西都原までひとり走り。春は桜や菜の花、秋はコスモスが楽しめる。

西都原(さいとばる)古墳群は日本最大級300有余基の古墳が小高い大地に集まった国指定の特別史跡公園。